

## 運動会

2024. 9. 26

9月28日(土)に、幼稚園の運動会がある。多くの小学校や幼稚園に運動会という行事がある。行われる時期は、春か秋である。5月か9月、10月が多いのではなかろうか。コロナ禍の数年間を経て継続されている行事である。それだけの教育的価値や効果が認められるということだろう。

教職の最初は、小学校教員だった。運動会の2か月ぐらい前だろうか。職員会議に、運動会の実施案が出された。見てみると、種目ごとに担当が決められていた。私の名前もあった。よく見ると、種目の中身がない。どうやら、担当者が考えるようになっていた。困った。何もない。知識も経験もない。まわりの先輩の先生方に相談するのは、はばかられた。何だか相談してはいけないような気がした。

では、どうしたか。今であれば、ネットで簡単に検索できる。あの頃は、そんなものはなかった。困ったときの本屋さんだった。日曜日に、郡山の東北書店に向かった。2階の教育書コーナーに行った。あった。ちゃんと、月刊誌などには、運動会のことが特集されていた。種目例のようなものもあった。すぎるように食いついた。どれがいいかと選んだ。

後日、種目説明会があった。ドキドキである。先輩の先生方の前で、1年目の教員が説明をするのである。その種目をやったことがない。実は、よくはわかっていない。質問をされたら、どうしよう。不安が募る。だが、無事に終わった。何もわかってはいない若者を育ててあげようという優しさのようなものを感じた。ありがたかった。

こんな調子で、1年目の運動会を切り抜けることができた。なぜだかはわからないが、2年目からは、本など見なくても運動会の種目を自分で考えることができるようになった。考えるのが、おもしろかった。

本屋さんの教育書コーナーには、すぐに使えそうなネタのようなものがたくさんあった。若い頃は、それに飛びつきたくなる。ところが、意外と使えない。参考にはなるが、結局は自分で考えるようになる。それでも、考えるきっかけやヒントをもらえるだけでも助かっていたのかもしれない。

イタリアのローマ日本人学校でも、運動会はあった。その頃は、小学校の現場を離れて、もう何年も経っていた。多少の不安はあったが、運動会の種目を考えることができた。きっと、それまでの経験や知識が生かされたのだろう。

1年目の小学校の先生方は、運動会にどのような心持ちで臨んでいるのだろうか。子どもも成長できるが、先生も成長できるのが運動会である。幼稚園の運動会では、先生方が思いを込め、工夫を凝らした種目が行われることだろう。子どもたちの笑顔と先生方の達成感が楽しみである。